

会 議 録

1 会議名

令和4年度第5回八千浦区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】地域協議会会長会議について（公開）

3 開催日時

令和4年8月31日（水）午後7時00分から午後7時52分

4 開催場所

八千浦交流館はまぐみ 多目的室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 仲田紀夫（会長）、大島 進（副会長）、伊倉幹夫、笠原 武、
笠原幸博、坂詰喜範、関川信之、羽深栄一、平野和夫、柳澤 篤、
渡辺孝三郎、渡邊修一

・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【仲田会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：笠原幸博委員、坂詰委員に依頼
- 議題【報告事項】地域協議会会長会議について、事務局へ説明を求める。

【中村センター長】

- ・資料「地域協議会会長会議 次第」及び「(仮称)地域独自の予算の概要(案)」に基づ

き説明

説明した内容は案の段階で確定したものではなく、会長会議等での意見を踏まえ、今後も確定に向けて検討を進める予定である。北部まちづくりセンターでは、地域団体に向けた「地域独自の予算（案）概要説明会」を9月9日（金）及び10日（土）で開催する。

【仲田会長】

補足説明として、会長会議の中では地域協議会が予算要求をしなければいけないという雰囲気があった。今、説明があったが、一番わかりやすいのは、3ページに独自予算で作り上げる予算のイメージ図がある。ここで、地域協議会が独自予算で何をするのかがわかりやすい。地域を元気にするために必要な提案事業や意見書とある。これは、八千浦区では、以前に議論した際、制度が難しいのではないかとということで、地域活動支援事業のほうがわかりやすいということもあって、地域活動支援事業で地域を元気にする中身を検討してきて実施してきた。だから、八千浦区とすれば、地域の団体で実施という、この部分を理解いただいたほうが早いと思う。今までやってきた地域活動支援事業の中で、地域の活性化や交流を地域独自の予算に組み込んで、事業提案をするということである。イメージとしてわかりやすいのは、やちほ文化展はまぐみ市である。やちほ文化展はまぐみ市は一つのイベントになっているが、中身としては相当濃いわけである。小中学校の交流、物販、作品展、発表会もある。そういった意味で八千浦区として取り組んできものを地域独自の予算として提案をする。

これでいうと、令和5年度で地域独自予算として提案をして、予算編成するのは市がやるので、我々としては、やりたい内容をまちづくりセンターをとおして提案をする。そうすると、それを受けてまちづくりセンターや自治・地域振興課が必要であれば、予算として組み立てて予算要求をして、市長が最終的に査定をして議会に提案をする。このように捉えていただくと地域独自予算がわかりやすいと思う。それが、4ページ目の下の図になる。①について、今まで地域活動支援事業で実施してきた事業を地域として提案してもよいのではないかと考える。提案なので、それ程難しいものではない。市長は、地域自治区を自分が考えている新しい地方自治の核にしたい。そのためには、地域協議会は市長の補助機関なので、地域協議会が事業を提案できるという能力をつけ、地域協議会が活性化する必要がある。それが、市長が根幹としているものなのかと感じた。

私も会長会議で発言したのだが、地域協議会委員が自分たちで何かを行い、何か作ら

なくてはいけないという責任感に捉われると前に進まない。だから、各団体と話し合っ
て提案をするという役割を地域協議会が担うと考えるほうが、地域独自予算はわかりや
すいのではないかと思う。地域活動支援事業は地域限定の予算である。ところが地域独
自の予算になるには、議会を通さなくてはならない。そこに公益性を足していけば地域
独自の予算になるのではないか。地域活動支援事業も公益性の観点で、これまで審査し
てきたので、議会に提案できると感じた。

【関川委員】

今の話はわかりやすかった。八千浦区で言うと、やちほ文化展はまぐみ市と海まつり
も対象になるということになる。ただ1つ不安なのは、今のところ10分の10だが、
地域の事情を知らない部署が査定をして、一部削られたとする。そうなると、今までや
ってきたことができなくなるのではないかという不安がある。事業自体、全く査定を通
らないということもあるのではないか。地域の事情を全く分からない人が審査するのは
どうなのか。

【仲田会長】

会長会議の話を聞いていると、それに対する不安は大きい。事情が分からない人が予
算査定で切る。その不安はあるが、今まで事業を行ってきた目的と効果はどうなのかと
いうことで、これくらいの事業をやるには、これくらいの予算がかかりそうだと提案す
ることはできるのではないか。

【関川委員】

承知した。もう1点わからないのが、今1つ1つの事業として提案しているが、1つ
の提案団体が提案している事業のすべてを予算化して提案することは可能なのか。今ま
で地域活動支援事業で提案された事業は、それぞれ単独事業だが、行っていることは八
千浦地区を活性化させるためのものだから、まとめて予算を組んで提案できるのか。

【仲田会長】

すばらしい提案だと思う。八千浦地区明るいまちづくり協議会が事業としていくつか
実施している。例えば、やちほ文化展はまぐみ市や海まつりに関連して、その中に八千
浦地区明るいまちづくり協議会がやってきた運動会やニュースポーツなどを事業の中に
組み込んで提案するという発想だと思う。それは、提案としてはできると思う。地域の
団体と地域協議会が議論をして提案してよいということになっている。予算執行の段階
で、仮に予算が付いて議会で承認されたとすると市の事業になる。市の事業として八千

浦区で展開をする。そうすると、その事業を誰が実施するかというところまでいく。予算編成の段階で市側が協議しなければならない。

【関川委員】

主体は市だが、それを提案した八千浦地区明るいまちづくり協議会に事業を委託するという意味か。

【仲田会長】

予算の仕組みとしては、そういう仕組みにならざるを得ないと思う。ただ、委託で実施するのか、補助金で実施するのかいろいろな方法がある。

【関川委員】

それは、決まっているのか。

【仲田会長】

それは、予算編成の段階で決まることで、そこまでは決まっていない。令和5年度予算でできるようになったが、その枠組みや骨組みは、まだ決まっていないというのが、先日の会長会議の話である。

だから、今言われたように、例えば、その事業を実施する時に提案した団体に市の事業として委託するのか、補助金でやるのか、そこは、市側で予算を組み立てることになると思う。

【関川委員】

今話を聞くと、まだ決まっていないということだが、今言ったように補助金なのか、委託料なのか、それによって使途が決まってくると思う。

【中村センター長】

補助金のスキームでいけば、地域の自由度は高い。仲田会長が言われたように、市が主体になって地元をお願いする委託になったとしても、市が主導権を持っているので、地域としては自由が利かなくなるかと思う。クリーン活動などの作業的なものは委託になり、イベントになると補助金になっていくのかと思う。

【仲田会長】

イメージとして、2ページの3(1)①の中に、一番下に頸城区の事例が出ている。この事業が継続として提案された場合、3ページの(2)①ここに、補助率の上限は10分の7とする。ただし、これまで地域活動支援事業を活用していたものは補助金になる。その場合、令和5年度は10分の10だが、令和8年度までに10分の7に減らし

ていくと書いてある。

もう1つ、②の一番下に大潟区の事例がでていますが、これは事業を継続する場合は、補助金の活用だと思われる。八千浦区で同じような考えができるものはないか考えると、海まつりとやちほ文化展はまぐみ市は対象とする取組の①とに該当すると考えられ、補助金という概念で入ると令和5年度は採択されれば10分の10だが、あとは予算が減っていても可能な事業を組み立てていく。或いは、その間に独自の事業費を捻出できるかは地域で検討する事項になる。

【関川委員】

別の話になるが、上越市の教育委員会で「部活動を令和5年の4月から地域に移行しましょう」という話があった。具体的には、なかなか決まらない。学校からすると部活動を地域に渡す。地域からすると部活動を引き受けるわけではない。そこにいろいろ費用が発生する。そこは、スポーツ推進課のほうで、新しい事業として予算立てするのかという話があった。地域で受けるということになると、そこに関係する予算も対象になるのか。

【仲田会長】

概要の読み方によっては全部該当する。それぞれの地域の課題を解決し活力の向上を図るに全て含まれる。あとは、どう解釈するかである。例えば、今のような例でいくと、地域としては、部活動は引き受けられないが、人材育成として、コーチは派遣できる。競技によっては人材がいれば派遣できる。今はないが幼年野球が活発で成績がよかった、バレーボールもそうだった、バスケットもそうだった。そういうことが伝統として引き継がれていれば、背景としては地域の人材を育成してコーチを育てたということで、コーチ派遣はできる。そういった意味では、資料の背景、目的の中に全部含まれるという気がする。

【関川委員】

9月末までに意見がまとまった取組とあるが、八千浦区地域協議会では、具体的にいつまでにやらなければならないというものがあるのか。

【仲田会長】

9月末までにまとまらなければ、予算組みに入れないということではない。

【中村センター長】

市の基本的なスケジュールは10月中の予算原案作成である。

【仲田会長】

提案は出来ればすればよい。ただ、地域を元気にするために必要な提案事業や意見書ということなので、仮に海まつりを想定して、それを意見書として出すことは9月末までに団体と協議して地域協議会が提案できるかは我々にかかってくる。

会長会議の中で、13区と15区で地域独自の予算に対する受け止め方が違う。13区の場合、地域協議会が合併事業を議論してきた経緯があるから、わりと自分たちで予算要求できる感覚がある。それに対して、15区はそういう経緯がないため、なぜ、地域協議会が予算を組み立てなければならないのかと思ってしまう。そこで、議論がかみ合わなかった気がする。そうではないのだと肩の荷を降ろせば楽になる。

【笠原武委員】

今の話を聞いていると、八千浦区で残したい物を重点的に協議して、予算付けをして出すという方向で考えてよいのか。

【仲田会長】

それは、郷土愛の醸成とある。まさに海まつりのテーマはそうである。そこは、いくらでも提案できると思う。継続として提案すれば、令和5年度は10分の10の金額になるという見方はできる。提案の仕方をどうするか議論は必要である。

次に「その他」について事務局へ説明を求める。

【千田主任】

- ・次回協議会：9月12日（月）午後6時30分から

【仲田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。